

周産期超音波検査バイブル

エキスパートに学ぶ技術と知識のエッセンス

超音波診断装置は産婦人科の診察室には必ずあり、超音波検査は日常の産婦人科診療において必要不可欠な検査です。超音波検査を用いるのは、産科のみならず生殖、婦人科と幅広いですが、特に産科領域においては必要度が高いものです。超音波検査は産婦人科医にとって身近な検査であり、一番多く行う検査でありながら、なかなか自信をもって行うことができない検査でもあります。それは産婦人科の臨床において超音波診断について系統的に学ぶ機会が少ないためです。多くの産婦人科医が「本当にこの見方でいいのだろうか」という疑問を持ちながら毎日の診療に超音波検査を用いているのではないのでしょうか。

もちろん超音波診断上達の一番の道は、超音波診断のエキスパートが実際に超音波検査を行うのを見て覚え、自分でも実際にやってみて、それをエキスパートに見てもらい、わからないことやできないことを直接教えてもらうことです。私のセンターでの経験では、この学習プロセスを行いながら症例数を積むと、誰でも本当に上手になります。しかし、残念ながら人手不足の日本の産科医療の現場において、このような学習機会がもてるのは稀と言えるでしょう。

そこで本企画では、「超音波診断エキスパートの技術と知識を自習できる」企画としました。産婦人科の診療で超音波検査を一番用いる周産期領域において、産科基礎編、産科応用編、胎児疾患編に分け、エキスパートが実際にどのように検査を行っているか、またどのような点に注意しているかについてわかりやすく解説していただきました。また胎児疾患編では画像から疾患を推測する際にも用いていただけるように配慮しました。産婦人科超音波診断に関しては種々の本や雑誌の企画がありますが、その構成はいつもほぼ同じで、また執筆陣はいつもほぼ同じ顔ぶれです。そこで今回はすこし構成を変え、またできるだけ若手のエキスパート達に執筆いただきました。実際に日常臨床の現場で活躍しているエキスパート達が、後輩に伝えたいエッセンスが詰まった内容になっています。

もちろん実際にエキスパートについて直接指導を受けることがベストですが、それがかなわない多くの産婦人科医に、この本を通して間接指導を受ける機会が提供できればと思います。この本で学び、それを実際の臨床で実践することでご自身の超音波検査がレベルアップすることが期待できると思います。

左合治彦（国立成育医療研究センター）